

米国株のカギを握る米企業の決算発表



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 本格化する米企業の決算発表

10月11日の米国株式市場では、ハイテク株主体で構成されるNASDAQ100が連日で年初来安値を更新するなど、波乱の展開が続いています。①世界的インフレ高進に伴う生活難、②インフレ抑制に向けたFRB（米連邦準備制度理事会）の積極的な利上げ姿勢、③それに伴う景気失速懸念、④世界的な金利上昇による信用不安への警戒、⑤米中対立への警戒、などが、投資家のリスク回避姿勢につながっているとみられます。

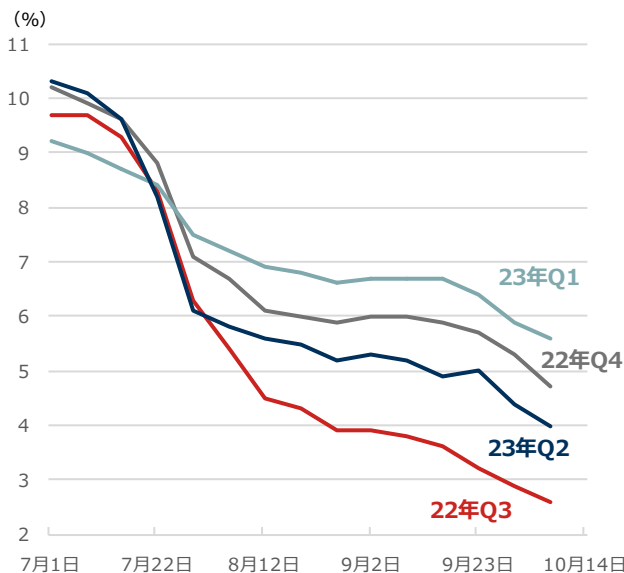
こうしたなか、米国株の先行きを占う上でカギを握る米企業の決算発表が本格化します。市場予想をみるとS&P500企業のEPS成長率は、先述した①～⑤を織り込む形で7月以降、下方修正が目立っています（右上図）。すでに諸々の悪材料を織り込んでいる可能性もあり、米企業決算に対する市場の期待は低いといえます。

ポイント② 実績が事前予想を上回る傾向が強い

米企業決算は事前予想に対して実績が上振れる傾向が続いています。コロナ感染拡大で世界がパニックとなった20年Q1（1-3月期）こそ、実績が事前予想を下回る結果となりましたが、その後は22年Q2（4-6月期）まで9四半期連続で、実績が事前予想を上回る結果となっています（右下図）。今回も同様の結果となれば、短期的には米国株への見直しムードが強まる可能性があります。

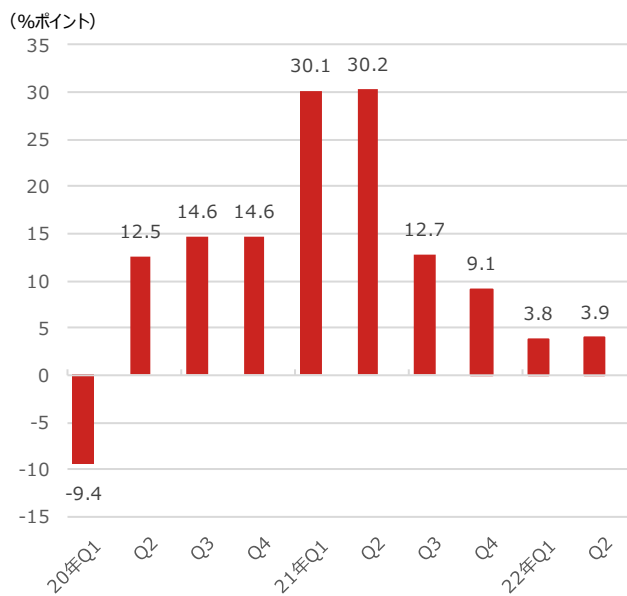
もっとも、米国による中国への半導体輸出規制の強化や、パソコン・スマホの需要減速などの影響もあり、米企業を取り巻く環境は不透明感が強い状況です。今回の決算発表では先々の見通しに対して経営者がどのような姿勢を示すかにも注目が集まりそうです。

S&P500企業のEPS（1株当たり利益）成長率予想



期間：2022年7月1日～2022年10月7日、週次
 ・2022年Q3（7-9月期）～2023年Q2（4-6月期）のEPS成長率が対象
 ・EPS成長率は前年同期比
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

S&P500企業のEPS成長率の事前予想と実績値との差



期間：2020年Q1（1-3月期）～2022年Q2（4-6月期）、四半期
 ・事前予想は決算期終了直前週の数字を使用
 ・EPS成長率は前年同期比
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。